
平成28年度
秩父市・豊島区 『生涯活躍のまちづくり』
ワークショップ報告書



平成29年2月

はじめに

秩父市と豊島区は、1983年10月に『姉妹都市』となって以来、双方のイベント参加や住民レベルの交流など、33年以上も様々な形で交流を続けています。

2014年5月、秩父市と豊島区は、両自治体とも「消滅可能性都市」の指摘を受けました。豊島区は23区で唯一の指摘でした。本区では直ちに「消滅可能性都市対策本部」を立ち上げ、その対策を検討する中で、「地方との共生」を対策の柱の一つに据えました。本区は様々な地域からの転入人口に支えられており、地方が衰退すれば、長期的には、本区も転入人口が減り衰退していくと考えたからです。

そこで今回、本区は、最も親交の深い交流自治体の一つである秩父市と、「地方との共生」のあり方を検討するため、両自治体協働で『生涯活躍のまち』（日本版 CCRC 構想※注）を考える住民参加型ワークショップを開催しました。

本報告書では、ワークショップにご参加いただいた皆様の活動状況を記録し、「提案書」として取りまとめました。限られた時間の中で、皆様のご協力によりまとめあげた試みですので、今後、具体的な課題解決のためには、さらなる検討が必要です。

今回のワークショップでは、『まず秩父市民と豊島区民の多世代交流が大切である』とのご意見を多くいただきました。また、空き家活用など、秩父市にある既存の地域資源の活用も提案されました。

このような、秩父市と豊島区の「共生のまちづくり」が地方創生のモデルケースとなり、「生涯活躍のまち」の実現、ひいては日本全体の元気につながるのではないかと私たちは考えています。

今回のワークショップでは、秩父市関係者、公募の豊島区民、そして特に、立教大学セカンドステージ大学と大正大学の皆様に、運営に際し多大なご協力をいただきました。この場をお借りして、参加者の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、今回のワークショップをきっかけに、参加者の皆様が秩父市と豊島区の架け橋となっていただくことをお願い申し上げます。

平成29年2月
豊島区政策経営部企画課

※注 日本版CCRC構想（日本版 CCRC 構想有識者会議）

東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じて地方やまちなかに移り住み、移住先の多世代の住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指すもの。

目 次

	ページ
1. 生涯活躍のまちづくりワークショップの目的 ……………	3
2. 28年度ワークショップの内容と進め方 ……………	4
3. ワorkshop開催報告	
3-1 第1回 基調講演 ……………	5
3-2 第2回 秩父市現地見学ツアー ……………	12
3-3 第3回 グループワーク1日目 ……………	15
3-4 第4回 グループワーク2日目 ……………	22
3-5 第5回 本発表会 ……………	28
4. まとめ『秩父市と豊島区 生涯活躍のまちづくり提案書』…	42